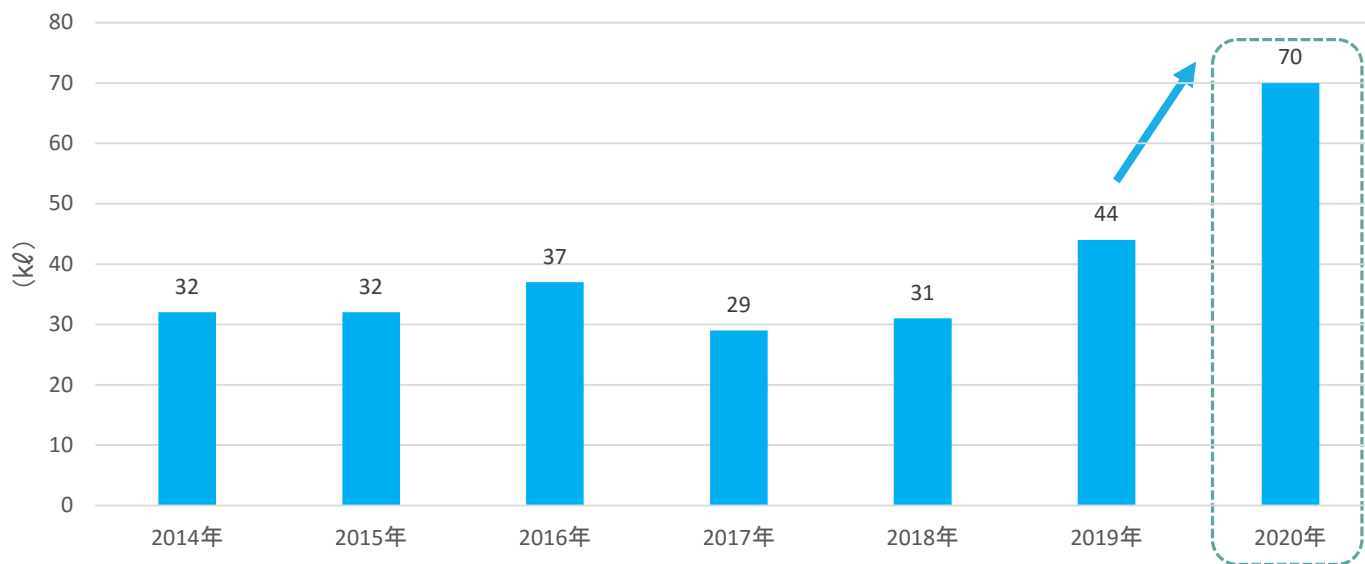


琉球泡盛海外輸出プロジェクト 2019年の実施状況 まとめ(20.04.01時点)

沖縄県酒造組合

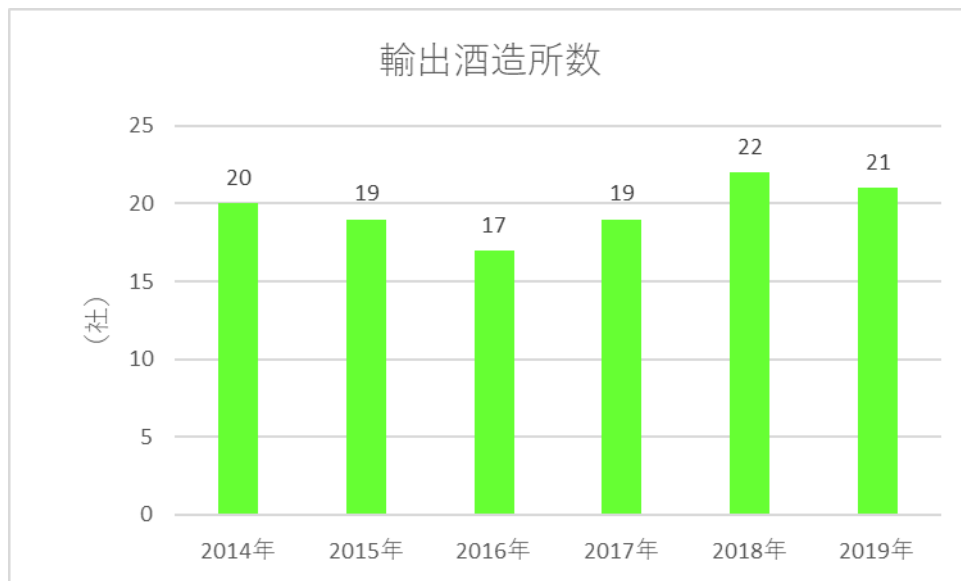
琉球泡盛の輸出状況



出典：沖縄県酒造組合調べ。(30度換算)

- 2019年は約44KL(対前年約42%増)になった。
- 2020年の目標である海外出荷数量の70KLを達成するためには、2019年実績に対して、約26KLの追加数量が必要。
(2019年を100とみた場合、2020年の目標値は159%:約1.6倍増が必要)

酒造所別の輸出状況①



出典: いずれも沖縄県酒造組合調べ

酒造所別輸出数量の対前年増減(2019年)

数量増加	数量減少
16社	5社

■輸出国(2019年実績国として)
※合計28の国・地域 (下線は新規輸出国)

アメリカ、中国、香港、台湾、韓国、オランダ、マレーシア、シンガポール、イタリア、タイ、ベトナム、ロシア、カナダ、イギリス、アルゼンチン、ブラジル、オーストラリア、グアム、フランス、ドイツ、スイス、ニュージーランド、フィンランド、ベラルーシ、インドネシア、ボリビア、ペルー、メキシコ など

- 輸出を行った酒造所は、前年より1社減少(単発受注していた酒造所のため)
- 2019年では16社(76%)が、輸出量で対前年を上回る。
- 2019年の輸出実績国は、28の国地域となる

酒造所別の輸出状況②

2019年に輸出した酒造所別輸出数量増減の要因(複数回答)

増加要因	回答社数
インバウンド観光客の増加(輸出免税)	3
中国での増加	4
台湾での増加	10
韓国での増加	2
香港での増加	9
オーストラリアでの増加	2
イタリアでの増加	1
シンガポールでの増加	3
フランスでの増加	2
アメリカ(ハワイ・グアム)での増加	9

減少要因	回答社数
中国で減少	1
台湾で減少	2
香港で減少	3
韓国で減少	1

出典: 沖縄県酒造組合調べ

- 輸出数量の減少の要因としては、デモ本格化など相手国の情勢不安定化のためプロモーション活動が困難となったことや泡盛の輸出数量として算入されない泡盛ベースの「リキュール」商品へのシフトが挙げられる。

支援の状況

2019年に輸出を行った酒造所(21社)に対する琉球泡盛海外輸出プロジェクトによる支援の状況

概況	社数
支援を受けた	14
輸出が増加した	13
輸出が減少した	1
支援を受けていない	7
輸出が増加した	3
輸出が減少した	4

出典：沖縄県酒造組合調べ。

注) 支援策は、国内におけるインバンド向けのプロモーション等は除く。

- 2019年に輸出を行った酒造所の約7割(21社中14社)が、本プロジェクト「行動計画」の支援メニューにより支援を受けている。
- 本プロジェクト支援を受けている酒造所(14社)のうち、約9割の酒造所で前年の輸出数量実績を上回った。
- 本プロジェクト支援を受けていない酒造所(7社)のうち、前年の輸出数量実績を上回ったのは約4割。